

中国語から意味のみを受け容れた畳語形漢語副詞の変化について

蔡嘉昱

日本語において、現代中国語では副詞として使用されていない漢語副詞が多い。そのうち、「散々」のような日本語において独自の変化を経た語がある一方、「点々」のような中国語から意味を受け容れた畳語形漢語副詞も存在する。

本発表は、畳語形漢語副詞のうち、中国語から意味を受け容れ、かつ現代中国語において副詞的用法を持たない語を調査対象に、中国語と日本語資料における用例を整理・比較することにより、意味・用法などの変化を観察し、中国語から意味のみを受け容れた畳語形漢語副詞の副詞的用法を獲得する過程を考察する。

竹内らの「現代辞書における副詞一覧」に基づき、各辞書を確認し、中国語から意味を受け容れた畳語形漢語副詞「点々」、「鬱々」、「戦々」、「茫々」を中心に分析する。

調査の結果、「点々」・「鬱々」・「戦々」について、中国語で衰退した副詞的用法を維持している。維持できる理由は、「点々」、「鬱々」、「戦々」が長い間に日本人が書いた漢詩文に残され、国語化されていないことである。

「茫々」は中国語から意味のみを受け容れた畳語形漢語副詞である。中国語に副詞的用法がない理由は、「茫」という字が動的状态を修飾しにくい点である。日本語において早い時期に日本語に溶け込んで、動態のものを修飾できるようになり、形容動詞から副詞的用法を獲得した。